

令和5年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和6年2月2日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
生徒の「自律」と教師の「自立」を支える教育の推進 （生徒と教師がともに伸びゆくためのRemake）	1 「自らを律して たくましく生きる生徒」を育てる。 ① 問題解決的な生活と学習をとおして「生き方改革」と「学び方改革」を図る。 ② 4部会で掲げる「目ざす生徒像」の実現に向け、具体的なたでだてに沿って取り組む。 ③ 「あいさつ・そうじ・部活動」を中心に、生徒の心と体を鍛える。	B	B	①生徒が自らの学びを追究できるような経験を更に積み重ねていく必要がある。 【経営1～3】【問1～3】 ②目標実現に向けて具体的な手だてを検討し、共通理解を図りながら実践できた。【経営24】 ③生活委員会が実施するあいさつ運動に自主的に参加する生徒が増えた。【問6.8.9.16】	B	・授業中、生徒は真剣なまなざしで授業を受けていた。意見を伝え合う活発な授業づくりをしてほしい。 ・学校内で挨拶ができているので、校外での挨拶が活発になるような取り組みを継続してほしい。	・学習・生活における問題解決的な活動場面、学び合いの場面で、教員間で温度差なく指導ができるように、現職研修の内容を検討していく。 ・委員会活動や学級活動を活用し、挨拶、そうじへの意識向上のための取り組みを継続していく。
	2 「本気で叱って本気でほめる 愛があふれる教師」を育てる。 ① 「信じて・任せて・見守る」スタンスで生徒に寄り添い、生徒と向き合う。 ② 「認めて・ほめて・伸ばす」ことを大切に、生徒のよさに着目して背中を押す。 ③ 現研委員会の活動や自主的な研修をとおして、「教師力向上」と「感性磨き」を図る。	B	B	①②生徒たちのよさを伸ばすための手立てを検討し、学年・学校で共通理解を図りながら実践できた。【問23】【問24】 ③研究主任・教務主任・各部長を中心として現職研修の内容を検討し、教師力向上のための研修を実施できた。【経営28】	A	・生徒に真剣に向き合い、生徒の心に届く指導を今後も継続してほしい。 ・先生方が多忙だと、生徒と向き合う時間にゆとりがなくなる。	・現職研修で、生徒理解、生徒支援について取り上げ、実践に役立てていけるようにする。 ・学年・学校で共通理解を図るとともに、情報共有を図りながら個に寄り添った指導を進めていく。
	3 生徒の育ちを見通した「魅力あふれる教育活動」を展開する。 ① 4部会・2委員会の方針をもとに、発想豊かに工夫し、学校本来の活動を再開する。 ② 『南丸祭（唄・唄・唄）』を柱に、生徒の手による学級・学年・学校づくりに取り組む。 ③ 「小中9か年」を貫いて、子どもを育てる体制づくりと環境整備をすすめていく。	A	A	①②各部の提案をもとに、生徒の自律を旨とした活動を展開できた。南丸祭では、生徒の手で一つのものを作り上げる活動をしたことで、一体感や充実感を味わう経験ができた。 【経営27】【問13.14.15】 ③小学校との情報交換、連携した取り組みを更に継続していく必要がある。【経営22,42】	A	・合唱コンクールでの生徒の一体感が素晴らしかった。どの行事も生徒全員が参加できる考えられたものだった。 ・生徒の自主性を生かした取り組みを今後も継続してほしい。	・本年度は、かわり合いを大切にしたい行事を充実させることができた。一方で、行事の準備のために慌ただしい2学期であった。本年度の活動の振り返りを踏まえ、研究部・各部会を中心に、活動内容や年間計画の検討をしていく。
	4 生徒と教師が「育つ組織」・教職員にとって「働きやすい環境」を整備する。 ① 「島長会」「研究部会」「学年団」をはじめとする「チーム」で学校・学年運営にあたる。 ② 「顧問制」による相談体制を機能させ、各チームの組織力と対応力を高める。 ③ 時間の使い方を工夫し、「業務の効率化」「組織の強化」「働き方改革」を図る。	B	B	①②各部や学年団で話し合ったことを、主任会や運営委員会で情報共有しながら、よりよい計画となるように検討できた。相談体制が整い組織的な対応ができた。【経営26】【経営25】 ③PDCAサイクルによる業務改善や組織の改善を今後も継続していく。【経営31】	B	・生徒も教師も、コミュニケーションをとる場を大切にして、目標に向けて今後も取り組んでほしい。 ・目標を明確にしてタイムマネジメント意識を高めるなど、更なる業務改善を進めてほしい。	・研究部会や学年団の取り組みについて、主任会や運営委員会で話題にし、よりよい計画となるように今後も検討していく。 ・目ざす生徒像の実現に向けて、1年間の生徒の成長を見通しながら、各活動の重点目標を定め、活動内容を焦点化していく。
	5 家庭・地域や小学校との連携を深め「信頼される学校づくり」を推進する ① 連携委員会の具体的なたでだてをとおして、家庭、関係機関との「つながり」を強化する。 ② 学校や生徒の情報を積極的に発信し、連携の強化と学校サポーターの拡充を図る。 ③ 南部校区3校（合同）学校公開日を設置し、保護者や地域に開かれた学校を創る。	B	B	①③小学校に出向いてのあいさつ運動、ボランティアを募集して実施した南部清掃隊活動、南部校区学校公開日など、小学校と連携して実施することができた。 【経営42】【経営20】 ②ホームページや各種たよりにより、積極的な情報発信を行った。【経営21】【問26】	B	・小学校とのつながりがもっと増えるとよい。健康カードや南丸くん（南部中マスコット）が参加したあいさつ運動は、小中が身近に感じられるものだった。今まで以上の情報発信を期待する。	・小中学校の情報交換の機会を設定し、共通理解しながら意識改革を進め、具体的な取り組みをしていく。エールーム（適応指導教室）の活用について、小学校と更に連携していく。

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】